

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園 南館		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若葉園にご利用いただいているから、ご本人様、ご家族様が今まで大切にされてきたことを、私たちが共に大切に、生きてこれたように、また、これからも生きたいように生きていただくことをお手伝いしたいと考えています。お一人お一人の声を大切に、気持ちに寄り添い、住みやすい環境を提供しています。若葉園が皆様の喜びの場であるよう努めます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年により入居者の入れ替わりも見られ、活動的なユニット、穏やかに過ごすユニットという特徴あるホームでは、入居により笑顔を引き出し、楽しく過ごされる生活ぶりに、職員の日々のケアの積み重ねであることが表れている。管理者を中心に、職員が管理者を盛り立てながらのケア姿勢や、重度化及び高齢化傾向の中で、主治医・家族と職員がチームとして入居者の最終章への寄り添いのケアに敬意を表したい。管理者は、「困ったときの相談できる場所でありたい」との思いも深く、運営推進会議の議事録から透明性のある運営体制であることが表れており、この会議を生かしながらのケア向上とともに、認知症ケア推進への寄与等ますます期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(南館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し、サービス提供において、理念を意識しケアに努めている	開設時から掲げる理念は「家庭的な生活環境」の提供等の6項目を具現化し、職員のケア規範として生かされている、ホーム内への掲示により地域及び職員への啓発の一環としている。また、理念に沿ったケアの実践であることをミーティング等で振り返りながら、ケアサービスに反映させている。	管理者は、開設時からの理念であることや運営体制の変化の中で、より分かりやすいものとして見直しも必要としている。ホームが目指すケアや地域との関係性等を目標として掲げることも一案であり、全員で今一度初心に戻り検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事への地域の方への参加や、地域での祭りなどに参加。施設周辺の散歩をしていると、近所の方とあいさつを交わすなど交流がある	地域の中心部に位置し、小規模多機能ホームや学童保育等も併設し、行事(敬老会等)には学童等との交流の他、特別ゲスト等も招き盛大に開催している。日常的には、散歩や買い物時等近隣住民との挨拶や歓談、地元高校生のインターンシップ等受けながら交流促進に努めている。一方で町の防災訓練時の避難所、花火大会時の駐車場としての開放等ハード面を地域に還元している。入居者の地元も地域と捉え、祭りへの参加(見学)を支援している。	管理者は、ホームを困ったときの相談できる場所でありたいと志向を高くしている。これまでの地域との関係が更に充実し、地域住民の頼れるホームとしての基盤が築かれるであろうと大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で取り組みを発表することで、区長、民生員、住民の方より相談を受けている。また、関係機関へつなぐなど提言をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で運営状況、取り組みなどを発表し、家族、包括、行政機関、住民の意見をいただき、質疑応答し、取り組みに活かしている	小規模多機能と合同で開催する運営推進会議は運営状況報告の後、双方向の活発な会議が開催されている。入居者の様子は写真という視覚通じて発信し、各ユニットの入居者の状況、看取りケアの実践報告をもとにした意見交換等が行われている。また、身体拘束廃止委員会としての役目もこの会議が果たし、事例を通じた活発な意見交換によりケアサービスに反映させる等透明性のある運営体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課へ出向き、相談等、積極的に行い協力関係を築けるよう努力している。行政機関からの相談にも、可能な限りの努力をし支援に向けて取り組んでいる	行政及び地域包括支援センターは、運営推進会議に出席し行政情報を提供するとともに、ホームの実情を把握している。地域包括支援センターからの在宅困難事例等（一人暮らしや老々介護等）の照会等に行政にも相談しながら支援に努め、その他わからないことがあれば積極的に相談や照会をしている。介護保険認定更新に出向きながら情報を発信する等行政・地域包括支援センターと気軽に相談し合える関係が出来上がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い認知症状、周辺症状を理解し、認知症の方への尊厳を大切にケアに努めている。日頃より、身体的拘束について意識し、職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる	「拘束・虐待0宣言」を掲げ、ホーム内外の研修への参加により、身体拘束の具体的な弊害について正しく認識している。日々のケアの中で気になるところや、インターンシップ生のアンケートをもとにミーティングを行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、夜間帯トイレ介助が必要な方には、人感センサーを家族の同意を得て設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への研修や指導により理解を深め、日頃より職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる。職員のストレス、ケアに対する不安への聴き取りを行い改善できるように話し合いの場を持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人対応のご利用者の入居で職員へ制度について説明し、対応など理解につなげている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より施設説明を行い、疑問点などお聞きし、納得いただけるよう時間をかけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご家族からの意見は早急に職員間でケア検討しケア改善に努めている。来訪時には管理者、介護専門員から積極的に話しかけ要望等伺っている。相談しやすい環境づくりを心掛けている	家族の面会時に安心してもらえるような言葉で状況を説明しながら意向等を聞き取りし、急ぐ場合には電話で連絡している。家族の関わりが遠のかない様に、便りによる情報発信や敬老会に参加を呼びかけ、家族同士の交流の機会を作っている。運営推進会議も問題提起の場とされていることが、議事録に表れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より個々の職員と話す機会を持ち、運営上での気づき、提案を受けている。	毎月、ユニット毎にミーティングを行い、話し合いの中で職員の意見提案等を聞き、運営に反映できるように努めている。管理者は日々職員とのコミュニケーションを取りながら、意見等を聞く等できるだけ話しあう機会を持つことにより、モチベーションアップやストレスケアに努めている。また、職員の表情等に常時気を配りながら、相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には希望休を聞き、働きやすい環境に努めている。有休も取得状況を見ながら、積極的に取得促している。体調不良時にも早急な対応を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加、資格取得への支援を行い、職員が意欲をもって取り組めるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加(研修会、懇親会)により、情報収集、交換の交流を図っている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に、ご本人、ご家族からこれまでの生活状況、状態など情報収集し、今後の要望、不安など十分に聞き、職員間で情報共有しケアに繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、時間をかけ、話せる環境づくりに努め、ご家族の気持ちを理解し、気持ちに添うようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を聞き取り、施設での可能な限りでのサービスを十分に説明し、グループホームでの特色あるサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、職員優先になることないよう、選択、自己決定を大切にし、ご利用者、職員が協力関係の中で生活を実感できるよう取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙の中で、生活の様子や状態をお伝えし、施設優先でなく、ご家族と共に支援いただけるようお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族の要望に応じて、友人のお見舞いや、結婚式、法事への出席への日程調整や必要時には送迎、付き添い支援をしている。外部からの来訪も時間設定せず、気軽に行き来できるようにしている	家族の他、友人や知人、地域で関わりのあった民生委員の訪問、結婚式前の写真撮り、盆・正月の帰宅、葬式への参列、墓参等これまでの関係性を継続させている。えびす祭りや出身地区の祭りに参加したり、園庭内にある水天宮への参拝等等慣習などの継続も視野に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を的確に把握し、座席の配置、余暇活動への取り組み等、良好な関係関係づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人、ご家族からの相談を受け必要なサービス支援の提案や関係機関へつなぐなど行い、今後の生活への不安軽減にお手伝いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より、ご利用者様と話のできる環境づくりに努め、生活への意向や思いを把握できるよう努めている。意向や要望は職員間で共有し、思いを理解し、添えるよう心掛けている	一人ひとりの思いや意向等については、日頃の暮らしの中で、入居者の話をよく聞き把握するように努めている。初めて聞くような話がでてきたら、スタッフ同士で話し合っ、情報の共有を図っている。難聴の方には、大きな声で話しかけたり、意思疎通困難な方は、表情や行動から汲み取り、また、選択肢を示して確認する等本人本位になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、担当CMより話をうかがい、ご本人の望む生活のお手伝いが出来るよう努めている。また入居後、良好な関係を築き共に生活していく中で、把握していくよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの職員からの情報を職員間で共有し、一人一人の個性を大切に生活支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を大切にし、職員全体でのミーティングやカンファレンスを行い、良好なケアプラン作成、適切なサービス提供を行っている。必要時には主治医から現状説明や今後の状態を説明いただき、計画表作成している	ケアプランについては、毎月のミーティングでカンファレンスをしており、何か変化があった時には、情報としてあげている。モニタリングは3ヶ月毎にしており、入院等状況の変化があれば、プランの見直しをしている。本人の意向は、日常の会話の中から聞き出し、本人のことばで表現されている。プランは、入居者に家事や趣味など生活の延長として捉えたプラン等個別的且つ具体的なプラン作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に毎日の様子や食事、水分摂取量、バイタルを記録し、職員申し送りでは状態の変化等を伝え聞き、職員間で話し合い情報を共有し、より良い支援ができるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人、ご家族の要望に対応する為、勤務体制などを整えている。急な受診、外出の付き添いで、ご家族の対応が困難な場合には施設で対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配達サービスのある薬局を利用することで、職員の薬局での待ち時間の短縮や施設を空ける時間の短縮で、ご利用者様へのサービス提供に対応できるようしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の手厚い協力のもと、夜間、休日にも急な状態変化にも対応していただいている。病状などの説明の際にも、ご家族の気持ちに配慮されたお話をいただき、ご家族からの信頼もある。専門医の受診が必要な場合には、先生より直接電話で説明いただき、スムーズに受診につながっている	全員が協力医療機関での定期受診として、緊急時(休日)にも対応可能であり、入居者及び家族の信頼も厚く、専門医での受診の必要性等家族への説明とともに紹介による適切な医療に繋げている。また、訪問歯科を利用し、口腔ケアへの助言を受けている。職員も日々の健康管理やバイタルチェック、状態変化を早めに気づき、医療につなぐなど観察力を発揮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに准看護師がいることで、体調変化があった場合には直ぐに報告し、看護師より主治医につなぎ早急な対応が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が対応が困難な場合には入院時の準備、必要物品の持参等お手伝いしている。入院による環境の変化も考慮し、毎日の面会、必要時には夜間の付き添いを行うことで、安心して治療が出来るように支援している。入院先の看護師、相談員の方には状態変化を共有し、早期の退院、退院後の相談をお互いに行い関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化した場合や終末期での施設での対応できる範囲を説明し、ご本人、ご家族の希望に添いながら支援している。ご家族の気持ちに変化があった場合の柔軟な対応に努め、主治医と相談しながら取り組んでいる	入居によるリスク説明と、重度化・終末期については、積極的な医療は難しいことを説明し、家族の思いも変わるであろうという判断の下、来るべき時には家族の意向をあらためて聞き取りすることとしている。家族の思いを受け、主治医の支援を受けながら、家族も泊まり込み穏やかな終末期ケアを支援している。職員の夜勤帯の不安払拭にミーティングを行い、家族と職員とでエンジェルケアを行う等主治医及び家族、職員がチームとして入居者の最終章に寄り添っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による救急処置指導、急変や事故発生時の連絡、対応を職員間で確認し的確に対応できるようにしている。事故発生後には早急に振り返りを行い、改善策を検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防災害訓練を行っている。町の防災訓練に参加し、避難場所としての施設の体制を強化していく努力が必要と感じています	地震を想定した総合訓練や町の防災訓練に参加し、1のつく日には各棟を回り防火自主チェック表により確認し、コンセントにはキャップを付ける等危機意識を高くして臨んでいる。台風等予測できる事案にはシャッターを閉め、2～3日しのげる備蓄を用意している。	職員の危機意識を更に強化したいと意欲的な姿勢で防災に望まれている。昨今の脅威的な自然災害対策として、地震や水害等における職員体制など机上訓練も検討いただきたい。グループホームを地域住民、特に消防団に知って頂くことも有事の際の支援に繋がるものと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様が不快に感じない声掛けや言葉遣いに注意をしている。出来ていない時には職員同士で注意するようにしている	虐待の研修の中で入居者への対応、言葉使い等を検討する他、今年度はインターンシップでの高校生からのアンケートをもとに全員で話し合い、日々のケアを振り返っている。職員の守秘義務や個人情報情報を漏洩しないこと等入職時同意書を交わし、日々何気ない会話にも注意するよう指導している。	入居者と職員との馴染みの関係性がややもすると馴れ合いになってくことも予想される。今後も、入居者への声掛け等職員同士が注意喚起されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で業務の流れで職員優先のケアにならないよう注意し、本人の思いや希望を表現できる環境を心掛けている。職員の優しい声掛け、対応に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の柔軟な対応を心掛け、個々の希望が出来る限り実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色、形等を優先し、おしゃれを楽しむ事が出来るようにしている。清潔をを意識し、髪の毛の乱れや、洋服のほつれや汚染など気づいた際には直ぐに対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食後に洗い物をお手伝いしていただける方や、野菜の下ごしらえをしていただける方等、個々に出来ること、したいことを職員と一緒に取り組んでいる	以前の管理栄養士が立てた献立を参考にした料理である。台所からの匂いや音が食の意欲を引き出し、入居者もできる事(茶碗やお盆拭き等)に取り組まれている。入居者の嚥下状況に応じとろみやミキサー食等もあるが、職員の見守りや声掛けにより一緒に食卓を囲んでいる。誕生日には好きなものを提供しており、「今日はだれか誕生日？」という声も聞こえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を確認し、低下時には形態の変更や嗜好品のもを提供するなどし摂取量維持に努めている。また、時間を設定せず、回数を分け提供するなども行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔ケアにあたっている。ご自分でされる方に対しても、配慮した声掛けを行い確認している。義歯の不具合、残存歯、歯茎の状態の確認も細目に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により個人の排泄間隔を把握し、トイレ誘導の適切な声掛けや排泄の自立に取り組み、トイレでの排泄が大切であるということ、認識し支援に繋げている	排せつは自立した方もあるが、記録により状況を把握し、時間的な声掛けによりトイレでの排泄を支援している。排せつ用品の昼夜での使いわけや、夜間のみポータブルトイレを使用される場合には清潔を保つよう管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に乳製品などを提供している。ここに添った運動内容を取り入れるなどし便秘改善に努めている。主治医に相談しながら内服の調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調や希望などを考慮している。入浴への抵抗が見られる方もあるが、タイミングを合わせ、楽しい入浴が出来るようにしている	バイタルチェックにより入浴の可否を見極め、午前・午後とユニット毎に入浴時間を分け、ユニット同士が協力しながら支援している。入浴が面倒として拒否されることもあるが、時間をかけて誘導し、入ってしまうと気持ちよいと長湯される等個々の希望に寄り添いながら支援している。また、同性介助を希望される場合には職員を交代している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望される時間に休んでいただいている。体調や精神状態を把握し良質な睡眠がとれるよう支援している。体調により午後に休息時間を取られる方もおられるが、昼夜逆転のないよう、時間に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能、副作用他、きちんと理解し、変更があった場合には記録、報告し職員間で周知し経過観察を行い状態を医師へ報告している。個人の状態に合わせて薬剤師と相談し薬剤の形態も柔軟に対応していただいている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動においては、嗜好別に取り組んでいただけるよう、多様に環境を整えて対応している。また、業務の流れで職員優先にならないよう、ご本人が望んでいることが何かを把握しながら希望に添うように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に日程を調整し外出を支援している。ご家族の面会時に夕食や自宅への外出などの協力を得ることで、本人の喜びを得ている	全員での外出が難しい状況の中、地域の祭りや定期受診の際に遠出したり、買物と一緒に出かける等個別に支援している。また、家族との夕食や自宅への帰省など家族の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理でお金を所持されている方はおられないが、ご本人の希望の品物(菓子、洋服等)職員と一緒に外出し買い物されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から贈り物があつた際には、お礼の電話をされたり、得意の絵手紙を書かれたりしている、ご家族も大変喜ばれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、消臭に気を付けている。消臭においては、過剰な芳香剤の使用はせず、不快にならないよう配慮している。リビングにおいては生活音を大切に、職員の声の大きさなどにも注意を払っている	各ユニットには壁面を利用した作品を展示し、掃除や換気、状況や季節に応じた室温管理を徹底している。入居者それぞれの本年の目標を掲げたユニットや、窓からの田園風景を眺める事の出来るユニットと、各ユニットが工夫や特徴を活かした住環境としている。料理の匂いや音が食の意欲を引き出す等生活音も生かしながら居心地よい環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされることが多く、ご自分のお気に入りの場所にて気の合う方同士で話をされている。自室で過ごされる際には、職員が遠視行い安全に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使っていた家具等を置いていただき、大切な写真など飾り心地よく生活していただけるようにしている。家族からの写真や手紙などもご本人の良く見える場所に飾り、喜びとなっている	入居にあたり、馴染みの品の必要性を説明し、家族写真やテレビ等が持ち込まれ、退所された方のタンス等を有効に活用している。季節ごとの家族による衣替えや、椅子・布団・タンスや多くの洋服が持ちこまれた部屋等もあり、各担当職員により清潔と整理整頓が行き届いている。入居者の心身の状況により布団敷きで睡眠される方や、身体的な面からポジショニングバーを設置する等個々が自立して気持ちよく過ごす環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、バリアフリー、案内プレート等設置し、安全な環境を考慮しながらも、自らが生活を実感できるよう支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100013		
法人名	株式会社 ケア サポート		
事業所名	グループホーム 若葉園 北館		
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1537		
自己評価作成日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和元年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若葉園にご利用いただけてからも、ご本人様、ご家族様が今まで大切にされてきたことを、私たちも共に大切に、生きてこられたように、また、これからも生きたいように生きていただくことをお手伝いしたいと考えています。お一人お一人の声を大切にし、気持ちに寄り添い、住みやすい環境を提供しています。若葉園が皆様の喜びの場であるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解し、サービス提供において、理念を意識しケアに努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設行事への地域の方への参加や、地域での祭りなどに参加。施設周辺の散歩をしていると、近所の方とあいさつを交わすなど交流がある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で取り組みを発表することで、区長、民生員、住民の方より相談を受けている。また、関係機関へつなぐなど提言をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で運営状況、取り組みなどを発表し、家族、包括、行政機関、住民の意見をいただき、質疑応答し、取り組みに活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課へ出向き、相談等、積極的に行い協力関係を築けるよう努力している。行政機関からの相談にも、可能な限りの努力をし支援に向けて取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い認知症状、周辺症状を理解し、認知症の方への尊厳を大切にされたケアに努めている。日頃より、身体的拘束について意識し、職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への研修や指導により理解を深め、日頃より職員同士で注意しながらケアに取り組んでいる。職員のストレス、ケアに対する不安への聴き取りを行い改善できるように話し合いの場を持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人対応のご利用者の入居で職員へ制度について説明し、対応など理解につなげている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より施設説明を行い、疑問点などお聞きし、納得いただけるよう時間をかけ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご家族からの意見は早急に職員間でケア検討しケア改善に努めている。来訪時には管理者、介護専門員から積極的に話しかけ要望等伺っている。相談しやすい環境づくりを心掛けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より個々の職員と話す機会を持ち、運営上での気づき、提案を受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には希望休を聞き、働きやすい環境に努めている。有休も取得状況をみながら、積極的に取得促している。体調不良時にも早急な対応を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加、資格取得への支援を行い、職員が意欲をもって取り組めるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加(研修会、懇親会)により、情報収集、交換の交流を図っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に、ご本人、ご家族から今までの生活状況、状態など情報収集し、今後の要望、不安など十分に聞き、職員間で情報共有しケアに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、時間をかけ、話せる環境づくりに努め、ご家族の気持ちを理解し、気持ちに添うようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を聞き取り、施設での可能な限りでのサービスを十分に説明し、グループホームでの特色あるサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、職員優先になることないよう、選択、自己決定を大切に、ご利用者、職員が協力関係の中で生活を実感できるよう取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙の中で、生活の様子や状態をお伝えし、施設優先でなく、ご家族と共に支援いただけるようお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族の要望に応じて、友人のお見舞いや、結婚式、法事への出席への日程調整や必要時には送迎、付き添い支援をしている。外部からの来訪も時間設定せず、気軽に行き来できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を的確に把握し、座席の配置、余暇活動への取り組み等、良好な関係関係づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人、ご家族からの相談を受け必要なサービス支援の提案や関係機関へつなぐなど行い、今後の生活への不安軽減にお手伝いしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より、ご利用者様と話のできる環境づくりに努め、生活への意向や思いを把握できるよう努めている。意向や要望は職員間で共有し、思いを理解し、添えるよう心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、担当CMより話をうかがい、ご本人の望む生活のお手伝いが出来るよう努めている。また入居後、良好な関係を築き共に生活していく中で、把握していくよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの職員からの情報を職員間で共有し、一人一人の個別性を大切に生活支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を大切にし、職員全体でのミーティングやカンファレンスを行い、良好なケアプラン作成、適切なサービス提供を行っている。必要時には主治医から現状説明や今後の状態を説明いただき、計画表作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に毎日の様子や食事、水分摂取量、バイタルを記録し、職員申し送りでは状態の変化等を伝え聞き、職員間で話し合い情報を共有し、より良い支援ができるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人、ご家族の要望に対応する為、勤務体制などを整えている。急な受診、外出の付き添いで、ご家族の対応が困難な場合には施設で対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配達サービスのある薬局を利用することで、職員の薬局での待ち時間の短縮や施設を空ける時間の短縮で、ご利用者様へのサービス提供に対応できるようしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の手厚い協力のもと、夜間、休日にも急な状態変化にも対応していただいている。病状などの説明の際にも、ご家族の気持ちに配慮されたお話をさせていただき、ご家族からの信頼もある。専門医の受診が必要な場合には、先生より直接電話で説明いただき、スムーズに受診につながっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに准看護師がいることで、体調変化があった場合には直ぐに報告し、看護師より主治医につなぎ早急な対応が来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が対応が困難な場合には入院時の準備、必要物品の持参等お手伝いしている。入院による環境の変化も考慮し、毎日の面会、必要時には夜間の付き添いを行うことで、安心して治療が出来るように支援している。入院先の看護師、相談員の方には状態変化を共有し、早期の退院、退院後の相談をお互いに行い関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化した場合や終末期での施設での対応できる範囲を説明し、ご本人、ご家族の希望に添いながら支援している。ご家族の気持ちに変化があった場合にも柔軟な対応に努め、主治医と相談しながら取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による救急処置指導、急変や事故発生時の連絡、対応を職員間で確認し的確に対応できるようにしている。事故発生後には早急に振り返りを行い、改善策を検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防災害訓練を行っている。町の防災訓練に参加し、避難場所としての施設の体制を強化していく努力が必要と感じています		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様が不快に感じない声掛けや言葉遣いに注意をしている。出来ていない時には職員同士で注意するようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で業務の流れで職員優先のケアにならないよう注意し、本人の思いや希望を表現できる環境を心掛けている。職員の優しい声掛け、対応に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の柔軟な対応を心掛け、個々の希望が出来る限り実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色、形等を優先し、おしゃれを楽しむ事が出来るようにしている。清潔をを意識し、髪の毛の乱れや、洋服のほつれや汚染など気づいた際には直ぐに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食後に洗い物をお手伝いしていただける方や、野菜の下ごしらえをしていただける方等、個々に出来ること、したいことを職員と一緒に取り組んでいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を確認し、低下時には形態の変更や嗜好品のものを提供するなどし摂取量維持に努めている。また、時間を設定せず、回数を分け提供するなども行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔ケアにあたっている。ご自分でされる方に対しても、配慮した声掛けを行い確認している。義歯の不具合、残存歯、歯茎の状態の確認も細目に行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により個人の排泄間隔を把握し、トイレ誘導の適切な声掛けや排泄の自立に取り組む、トイレでの排泄が大切であるということ、認識し支援に繋げている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に乳製品などを提供している。ここに添った運動内容を取り入れるなどし便秘改善に努めている。主治医に相談しながら内服の調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調や希望などを考慮している。入浴への抵抗が見られる方もあるが、タイミングを合わせ、楽しい入浴が出来るようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望される時間に休んでいただいている。体調や精神状態を把握し良質な睡眠がとれるよう支援している。体調により午後に休息時間を取られる方もおられるが、昼夜逆転のないよう、時間に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能、副作用他、きちんと理解し、変更があった場合には記録、報告し職員間で周知経過観察を行い状態を医師へ報告している。個人の状態に合わせ薬剤師と相談し薬剤の形態も柔軟に対応していただいている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動においては、嗜好別に取り組んでいただけるよう、多様に環境を整えて対応している。また、業務の流れで職員優先にならないよう、ご本人が望んでいることが何かを把握しながら希望に添うように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に日程を調整し外出を支援している。ご家族の面会時に外食や自宅への外出などの協力を得ることで、本人の喜びを得ている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理でお金を所持されている方はおられないが、ご本人の希望の品物(菓子、洋服等)職員と一緒に外出し買い物されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から贈り物があった際には、お礼の電話をされたり、得意の絵手紙を書かれたりしている、ご家族も大変喜ばれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、消臭に気を付けている。消臭においては、過剰な芳香剤の使用はせず、不快にならないよう配慮している。リビングにおいては生活音を大切に、職員の声の大きさなどにも注意を払っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされることが多く、ご自分のお気に入りの場所にて気の合う方同士で話をされている。自室で過ごされる際には、職員が遠視行い安全に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使っていた家具等を置いていただき、大切な写真など飾り心地よく生活していただけるようにしている。家族からの写真や手紙などもご本人の良く見える場所に飾り、喜びとなっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、バリアフリー、案内プレート等設置し、安全な環境を考慮しながらも、自らが生活を実感できるよう支援している		